

03・『はちやの湯』脱衣所で、りっさんとおしゃべり

とある年の冬。

トラック02から数時間後。

十二月十二日。二十三時ごろ。

場所は、『はちみつ荘』の隣にある銭湯『はちやの湯』の、女湯脱衣所。  
主人公は今バイトを終え、今、こちらへお風呂に入りに来たところだ。

## SE1 脱衣所の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【小さな音量で流す】

【0—5秒ほど流してSE2】

【その後、音量が小さくなる】

【トラック終了まで流し続ける】

SE2 主人公の足音

【最初から最後まで流す】

【小さな音量で流す】

【0—5秒ほど流して『律』のセリフ】

【その後『律』のセリフと重ねて流す】

【▲1でストップする】

〈主人公〉

「あゝ！ りっさん！」

すると、律がいた。

主人公、近寄りながら声をかける。

▲ ボイス加工あり

【5メートルほど離れた位置から聞こえる】

【だんだん近づいてくる（主人公から近づいている）】

● 正面 30センチ

〈律〉

「このトラックでは、律はすべて主人公に話しかけている。明るく、上機嫌で。

律はもうお風呂から上がったところ。

なので、とても気分がいい」

おくお♪ お疲れい♥

今帰ってきたところ？」

〈主人公〉

「そーお！」

▲ 1 ここでS E 2がストップする。

主人公、返事をしながら、律の隣まで歩いていく。

律はすでに入浴を終えており、服を着ているところのようだ。

二人の距離が近づく。

▲ ボイス加工あり

「2メートルほど離れた位置から聞こえる」

● 正面 30センチ

〈律〉

「にやにやと楽しげに。」

しかし『バイト熱心な主人公の事だから、大丈夫だろう』と思っている。  
なので、あまり心配はしていない。

軽くからかうような感じで」

バイト。ちゃんと間に合ったか？」

〈主人公〉

「いやもう、めっちゃギリギリだった。すごい走った」

主人公、いかに危険な出勤だったかを伝えるべく、ウツと顔をしかめ、低い声で答える。  
さらに走るポーズまでとると、律は声を上げて笑った。

▲ ボイス加工あり

「2メートルほど離れた位置から聞こえる」

● 正面 30センチ

〈律〉

「明るく楽しげに。

主人公の返答が面白いので。

また、それでも無事に間にあった事がわかり、安心したので」

あっはは♥

何（なん）とかなって良かったね♪」

〈主人公〉

「ありがとう！

りっさんは何時に帰ってきたの？」

今度は主人公が尋ねる番だ。

律は理系で、主人公には十パーセントほども理解できない難しい研究にいそしんでいる。

今日もおそらく、主人公とさほど変わらない時刻に戻ってきたのだろう。

律、主人公の質問に、服を着ながら答える。

SE3 律が服を着る音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

【0—1秒ほど流して、次の『律』のセリフと重ねて流す】

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

● 正面 30センチ

〈律〉

「【明るく穏やかに。

自分の帰宅から、現在に至るまでの経緯を述べる。

また、今日のお風呂の感想も伝える。

律は律で忙しく、疲労する時間を過ごした。

だが、表には出さない】

んー、うちい？

九時くらいかなあ。

みつみちゃん軽くご飯作って待っててくれたから、食べてからお風呂来たのさー♥

今日もいいお湯だったよお。

実質貸し切りをお楽しみ下さーい♪」

〈主人公〉

「おっ♪ やった♡

誰かと会えるのもいいけど、一人もいいよねえ」

▲ ボイス加工あり

「2メートルほど離れた位置から聞こえる」

● 正面 30センチ

〈律〉

「【上機嫌で同意する。

自分も今日は、完全に一人のお風呂だったので。

しかし『その途中で、主人公を始めとする誰かが入浴してきたら、それはそれで楽しいだろう』とも思っていたので」

わかる♪

誰かに会えるのもよし、一人でゆっくり入るのもよし、だよねえ♡

〈主人公〉

「うむうむ。同感ですわ」

SE 4 主人公が服を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

【次以降の『律』のセリフと重ねて流す】

【SE 4 が終わり次第 SE 5 を流す】

SE 5 主人公が服を脱ぐ音 2

【最初から最後まで流す】

【次以降の『律』のセリフと重ねて流す】

主人公、会話を続けながら脱衣を始める。

脱衣所には、現在律と主人公の二人しかいない。

寮内に居るのと変わらない、まったくした空気が流れている。

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

● 正面 30センチ

〈律〉



「しみじみと。」

『はちみつ荘』での暮らしについて、良い点を述べていく。

律は主人公よりも一年早く入寮したため、すでに、二年近く『はちみつ荘』で暮らしている。

しかし、それでも時々実感するほど、ここでの生活は素晴らしいので」

……ここ、ほんと良（い）いよねえ。」

ご飯美味しいし、寮則緩いし♪

【『賭け』とは、寮生の数が少なく、寮の構造上人間関係が密になりそうな分、相性が悪い相手と暮す事になったら困る。しかし、自分で寮生を選ぶ事はできない。なので、入寮は一種の賭けだった』という意味】

寮生少ないのは賭けだなくって思ってたけど、みんな仲いいし。」

【寮生の『はちやの湯』利用条件について述べる。

『うちら』とは『寮生たち』という意味。

寮生は、二十二時に『はちやの湯』が閉店した後も、二十四時までなら自由に利用することができる。

そうするとほぼ貸し切り状態になるので、律はこの特権を、とても気に入っている」  
おまけにこのお風呂♪

銭湯終わった後（あと）うちの時間にくれてるの、ほんとありがたいですわ」

〈主人公〉

「同感」。うちの大学らへんの下宿とか寮で、はちみつ荘が一番いい自信あるね」

▲ ボイス加工あり

「2メートルほど離れた位置から聞こえる」

● 正面 30センチ

〈律〉

「【明るく上機嫌で同意する。

『りっさん』とは自分自身の事。

『この事』とは、『はちみつ荘の事』であり、また銭湯の利用を含めた、『はちみつ荘での暮らし』の事」

りっさんも同感！

友達とかにこの事話すと、めっちゃ羨ましがられるも〜ん♪」

〈主人公〉

「うん！ はちみつ荘最強！」

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

● 正面 30センチ

〈律〉

「きゃっきやと楽しげに。

主人公の言葉を復唱する」

『はちみつ荘』さいきよく！

【少し間をあけてから。

にやにやと楽しげに尋ねる】

でもお……。キミ的には、それだけじゃないんじゃない？」

〈主人公〉

「ん？」

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

● 正面 30センチ

〈律〉

「【明るくさうと。

『みつ姉』とはみつみの事。

律は、その時の気分で一人称や他者のあだ名を変えて呼ぶタイプ」  
みつ姉（ねえ）がやってるから、ここ選んだんでしょ？」

〈主人公〉

「それはあるね！ 幼馴染がやってるって安心だし」

主人公、ストレートに尋ねられて少々驚きつつも、素直に頷く。

律は主人公とみつみの関係を知らない。

勘のよさそうな律の事だからもしかすると……と思う事はあるが、主人公としては、確証に至ってはいない。

本来なら、隠すような事ではない。友人に恋人の話をしたって、何の問題もないと思う。

だが、その友人と恋人、そして自分自身が一緒に暮らしていると、話は一気にややこしくなる。

だから主人公は、律にもこの関係を話せずにいるのだった。

……と、悩みつつも、主人公とみつみは隙あらば隠れていちゃいちゃしているのだが……。

▲ ボイス加工あり

〔2メートルほど離れた位置から聞こえる〕

● 正面 30センチ

〈律〉

「[しみじみと羨ましげに。

『自分だったら、幼馴染の同性とはいえど、一緒に暮らせるかは自信がない』と  
思っている。

また『入寮すれば幼馴染ではなく、管理人と寮生の間柄になり、関係性が変わってしま  
うのもなかなか難しい』と思っているのだ」

ほんと仲いいんだねえ。

幼馴染とはいえさ、下宿先として一緒に暮らすとなるとまた別じゃない？

『知ってる相手の方が気まずい』『逆に一緒に生活しづらい』とかあるじゃん」

〈主人公〉

「まあそれはそう、確かにそう。

りっさんの言う通り、みつみ姉ちゃんだったから『いいかな？』って思ったところあるね」

だから主人公は『嘘はついていないが、本当の事をすべて話している訳ではない』というスタンスを取る。

律には申し訳ないと思うが、今はここが限界なのだ。

▲ ボイス加工あり

「2メートルほど離れた位置から聞こえる」

● 正面 30センチ

〈律〉

「【納得したような、納得しきれていないような感じで】なるほどねえ。」

【特に他意なく、明るく。

交友関係の広い律は、色々な人物の色々な人間関係を知っている。

その中にはあまり幸福とは言えない関係も多数あるので。

なので、律は『寮仲間が、管理人といい関係で本当に良かったなあ』という気持ちで言っている。

正直な所、律は主人公とみつみの関係をなんとなくあやしく思う事もある。

だが、二人から言ってこない限り律は踏み込まないし、仮に二人が交際しているという確信をもって、ふれるつもりもないので」

何（なん）か素敵だよねえ、キミらの関係♪」

〈主人公〉

「そうおっしゃっていただけて、たいへん光栄でございます」

▲ ボイス加工あり

「2メートルほど離れた位置から聞こえる」

● 正面 30センチ

〈律〉

「【明るく上機嫌で。

主人公が自然な反応を心がけているようでも、何だか嬉しそうなのに気づいてしまったので。

だが、やはりつつこまない。

主人公もおおむね脱衣を終えているし、ここで話は終わりにして、ドライヤーのある洗面台に向かう事にする」

ははっ♪

そいじゃ髪乾かしてくるね〜。

ゆっくりお楽しみ下さ〜い♪」

〈主人公〉

「うん！」

SE 6 律の足音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

【0—3秒ほど流して『律』のセリフ】

【その後『律』のセリフと重ねて流す】

▲ ボイス加工あり

【3メートルほど離れた位置から聞こえる】

【だんだん遠ざかる（律が離れていく）】

● 正面 30センチ

〈律〉

「【明るく上機嫌で】

のぼせんなよう♪」



へ主人公へ

「おう！」

ここでフェードアウトして終了。